

ワールドワイド携帯電話四半期動向

2013年2月18日報告

2012年4Q(10-12月)調査結果 目次

1	2012年4Q(2012年10-12月)結果の要約	3	7	端末販売動向推移	21
2	1-3月の出荷、販売見通し	4	7.1.	2012年4Q端末販売動向	21
3	地域別累積加入推移(四半期別)	6	7.2.	2012年4QのSmart Phone販売動向	26
3.1.	中国、インド、ブラジル、ロシア加入推移	9	7.3.	年別販売台数推移	29
4	方式別加入推移(四半期別)	11	8	2013年の販売台数見通し、メーカー別シェア予測	31
5	加入者年別推移	14	9	Nokiaの2012年4Q動向	33
5.1.	地域別	14	10	Samsungの2012年4Q動向	36
5.2.	方式別	15	11	LGの2012年4Q動向	39
6	主要オペレータ加入者数推移	16	12	ソニーモバイルの2012年4Q動向	41
6.1.	アジア	16	13	Motorola Mobilityの2012年4Q動向	42
6.2.	西欧	17	14	Appleの2012年4Q動向	44
6.3.	東欧	18	15	Blackberryの2012年4Q動向	48
6.4.	北米	19	16	HTCの2012年4Q動向	49
6.5.	中南米	19	17	その他の端末情報	50
6.6.	中東/アフリカ	20	18	端末各社の出荷計画	51
6.7.	主要オペレータ加入者数推移の世界全体に占める推定比率	20	19	製品在庫状況ほか	52

2012年4Qの世界の携帯電話市場概況

加入者数推移

10-12月期の新規加入件数は前期の水準を下回った。通常4Qは季節需要から新規加入と販売台数が増える習性があるが、リーマンショック直後の2008年4Q以来の前期割れを記録した。

新規加入の低迷の要因は欧州の頭打ちと、前期に続きインドの累積加入の減少が直接の要因になった。方式別ではLTEが大きく新規加入を獲得し4Gシフトが鮮明になった。中国TD-SCDMAも4Qで急速に新規加入を伸ばした。2012年全体は前年に比べ1億件以上新規加入件数を減らした。

端末需要

季節需要から4Qは前期比10%増の販売台数を達成、Smart Phoneは初めて2億台の大台を越えた。4QではApple iPhone 5が北米を中心に急拡大し、同社のSmart Phone販売台数は前期比78%の大幅増を記録した。SamsungもグローバルでSmart Phoneが伸長し、3Qに続き4Qの端末部門売り上げは四半期過去最高を記録した。年間ベースでSamsungはNokiaを抜き、端末販売台数で初めてトップシェアを占めた。2013年はGSMローエンドに新シリーズREXを投入、販売数量の拡大を目指す方針である。4Qではこの他中国Lenovoが堅調な国内需要を背景にSmart Phone事業を伸ばし、端末事業部門の黒字転換を果たした。

4QではNokiaとLGが端末売り上げを伸ばし、端末部門収益も黒字を回復した。

NokiaのSmart PhoneはSymbian OSモデルの出荷台数が全盛期の10分の1まで落ち込み、Symbianからの撤退を確実にした。2013年はWindows OSに特化、ローエンドを含めたラインナップの充実に注力する構えである。

LGはOptimus LTEとGoogleと共同開発したNexus 4が販売、収益に寄与、初めてSmart Phone販売台数がフィーチャーフォンを上回った。2013年2QにはSmart Phone単独で4桁の販売台数を目指す計画である。

一方リストラを加速するMotorolaは端末事業に明るい兆しがみられず、主力端末生産拠点の天津工場をFlextronisに売却、端末生産からの完全撤退を表明した。

2012年全体の端末販売台数は欧州の需要不振が響き3.2%の微増に留まった。

2013年1Qの販売台数は前期比11.7%減を予想した。有力メーカーではApple、Motorola、HTC各社の落ち込み幅が大きくなり、フラグシップモデルを投入したソニーモバイルと、春節需要を控えた中国ローカルメーカーが堅調な推移を辿る見通しである。

注目されるのは新OSBlackberry 10の搭載モデルをRIMで1Qの販売動向は同社の将来を占う重要な四半期になってくる。尚同社はRIMからBlackberryに社名変更している。

2013年はSamsung、Nokia、Appleが上位3強を形成し、ZTE、Huawei、Lenovoの中国メーカーが上位を窺う展開が予想される。